

支 部 通 信

日本山岳会山梨支部 第3期第19号
令和7年12月20日

第6回子どもと登山

令和7年8月9日(土) 晴れ。富士の側火山「大室山(1468m)」に登った。当日の前後両日は雨天。合間の晴れを獲得したことで、日頃の行いの良し悪しを参加者と笑った。

公募参加者14名、スタッフ20名(看護師含む)で2班に分かれて行動した。

5か月前から準備に携わったことで、日本山岳会山梨支部と山梨県山岳連盟の共催事業を知ることから始まり、山梨県やまなして過ごす「山の日」関連イベントへの応募、日山協山岳共済会に補助金の申請、チラシの作成配布、下見山行等々に時間をかけた。またスタッフの皆さんの参加ご協力に感謝し、楽しい1日だったと感じていただけたら幸いだ。

出発式、準備体操のあと、樹海の中を歩き始める。富士風穴の入り口まで10メートルほど溶岩帯を降りて、風穴の歴史や磁石が北を指さない溶岩を探す。



「磁鉄鉱、この石は噴火当時の北を覚えているんだって…」私がここ数か月の間に頭に詰め込んだ知識を子ども

たちに伝える。子どもたちの「なんで? 攻撃」をいくつか想定しつつ、しかし最終手段は「なんでだと思おう?」という最強の「なんで返し」を用意しながら真剣に向き合う。

樹海からブナやミズナラの森に進むと、半日陰を好むフタリシズカの群生になった。この植生の変化に、子どもたちがすぐに声を上げる。

休憩を取りながら急登を約1時間登ると山頂に、そこから約15分で南峰にたどり着く。目の前が大きく開けた草原地にて、昼ご飯を食べる。富士山頂にかかる雲がなくなる一瞬を、みな期待しているのが伝わる。

「あっという間だった」「カップラーメンがお

いしかった」「大変だったけど登ることができて良かった」……。子どもたちの体力、感覚、遊びのセンスは、貴重な気づきだった。最後に森の駅風穴のソフトクリームを食べて解散した。

一見すると子どもが主役のイベントだが、“大人が”「子どもと登山」なのだ。山の中で遊ぶ子どもに刺激をもらって、大人が山の恩恵に感謝する日、だったと気がついた。(石澤貴子)

第1回定例会を開催

全支部員対象の定例会が、2025年9月25日(木)、リッチダイヤモンド総合市民会館で開催された。支部として初めての開催である。出席者は古屋支部長以下24名(内、理事:9名、会員・準会員:15名)。車座になり、石澤理事の進行の下に和やかな雰囲気で行った。

冒頭、古屋支部長から「全支部員対象に自由な意見を発表できる会議が必要であることから、この会を開催することにした」との定例会の主旨が述べられた。続いて小宮山理事長兼山行委員会委員長から、支部主催山行・個人山行の説明があり、2025年度の山行実績や今後の予定が発表された。また、山岳古道調査について、各リーダーから金峰山御嶽道、南アルプス北部山岳古道、富士講の道の具体的な進捗状況の報告がなされた。活発な支部活動が、参加者に伝わったことだろう。

続いて支部同好会設立の話題に移り、支部アルパインクラブ・ネイチャークラブの説明ののち、奥丸山山行で作成した動画を視聴して、同好会の活動方針と共に山行の醍醐味・楽しさを共有した。



この後、本日のメインテーマである山のこと・会のことについてのフリートークに入った。まずは、「登ってみたい山・行ってみたい山」について。

- ・キノコ狩り・紅葉狩り、温泉付きの計画を立てて欲しい。
- ・日向八丁尾根、八幡尾根、尾瀬、甲斐駒など具体的な山行希望。
- ・かつて学校登山を体験。身近な山へ行きたい。
- ・他の山岳会はバリエーションルートの山行をしている。当支部ではどうか。
- ・体力が落ちて山行がきつくなった。1泊の山行を2泊にするなど時間に余裕を持った山行を画すれば山行も楽しめる。

続いて「登山についての相談や心配事・会への要望など」について。

- ・ライングループやSNSを活用したらどうか。
- ・山行にあたっての注意点（所持品や危険箇所など）を支部内で共有したらどうか。
- ・蛭、ダニ、蜂、熊の発生場所の情報を共有したらどうか。
- ・テレマークスキーを計画したい。

支部に対する忌憚のない希望・意見などが出されるとともに、会員同士の親交が深まり大変有意義な時間となった。（窪田光一）

第 66 回木暮祭を振り返って

10月26日、北杜市須玉町金山平にて、日本山岳会第三代会長であった木暮理太郎氏を偲ぶ会「第66回木暮祭・碑前祭」が開催された。前日から終日雨が降り、記念登山の「横尾山」山行は中止になった。降り止まぬ雨に木暮祭開催も危ぶまれたが、昼頃には青空が見える程に天候が回復。無事式典が執り行われる運びとなった。

主催は木暮碑実行委員会（増富ラジウム峡観光協会、山梨県山岳連盟、日本山岳会山梨支部）。主管は山梨支部である。

木暮氏は、地図がまだない時代に奥秩父に入り、その魅力を世に紹介し「奥秩父の父」として知られている。日本登山考、登山史、山岳展望や山岳文化の研究、更に海外登山や国際交流にも多大な足跡を残されている。

式典は14時より、主催者の小林事務局長、望月会長、古屋支部長の挨拶から始まった。来賓で



は、木暮氏生誕の地から群馬支部小池千秋事務局長の挨拶があり、北杜市の大柴邦彦市長

からは、「歴史ある山岳祭の開催は、地域や山岳関係者の並々ならぬ協力と努力の賜物であり、3000mに近い山々が多い北杜市は山岳景観日本一、北杜市の宝物である。次世代に繋げていきたい」と話された。また、日本山岳会常務理事の荒川一

郎氏は、木暮氏の著書『山の憶ひ出』を高校生の頃に読み、東京から見える山を登り始め、登山の契機となった面白いエピソードに触れられた。

14時25分から山梨支部北原孝浩理事による記念講演があった。木暮理太郎と深田久弥の接点に思いを馳せ、配布された豊富な資料から引き出された考察は大変興味深いものだった。二人にはどのような出会いがあったのだろうと、楽しく空想する事が出来た。

講演後は、「ほうとうを食う会」が金山平キャンプ場で開かれ、キノコたっぷりのほうとうを囲み、和やかな会となった。（東条真百合）

第 12 回中部ブロック 4 支部交流会

昨年の交流会は、山梨支部の当番で11月に清里の清泉寮にて開催した。今回は静岡支部が担当して、10月4日（土）～5日（日）伊豆長岡温泉・達磨山にて開催された。越後・信濃・山梨・静岡の各支部合計52名、更に翌日の山行に静岡支部員の多くが加わった。開催県は準備から実施まで大きな労力が必要だが、参加県の場合は大変気が楽だ。

今回は、各県の状況報告などは無く、講演が2つのみであった。講演1では、講師の都合がつかなくなり、富士山2236回最多登頂の日本記録保持者・ミスター富士山こと静岡支部の実川欣伸さん（82歳）が、急遽講師を代行した。演題



は「富士山登頂に挑戦」。実川さんは、42歳のとき初めて家族5人で富士山山頂に立ち、眼下に広がる雲海の風景に感動したという。以来、富士山の魅力に引き込まれ、五合目から山頂を目指すようになった。年間248回や、1日2回75日間連続を果たすなど、超人的な行動には感心させられる。可能な限り記録を更新していくそうだ。

2つ目は、同じく会員である出利葉義次氏による、後輩「平出和也との出会い、そして別れ」と題する追悼講演だった。相棒の中島健郎と共に世界最強のコンビであったが、K2のバリエーションルートで不慮の事故に遭い他界する。近年の登山界では、ずば抜けたクライマーとして活躍していた。私自身大ファンだった。この最先端に行くコンビの損失は大きい。

夜の懇親会は他県との交流会の場であり、最も盛り上がる時間帯だ。各県からの自慢の酒類が並び、隣同士直ぐ友になり笑顔がこぼれる。

2日目は達磨山をメインにした伊豆山稜線歩道の山行。霧香峠に集結し、土肥駐車場登山口まで

送迎していただいて縦走した。浜石岳をはじめ海岸沿いの山々を登山したが、これらはいつか行ってみたい山だったので念願がかなって嬉しかった。秋晴れの爽やかな稜線から見る海岸線に感嘆。メインの富士山は雲に覆われ、僅かしか見られなかった。ルート最高峰の達磨山 982m、ゴールが金冠山 816m。ここに集結して昼食。霧香峠に戻り解散式を終えて散会する。大きな満足感を味わった交流会であった。

2026 年度は 10 月 3 日～4 日、越後支部にて開催される。（磯野澄也）

「全国山岳古道調査」が最終段階

【南アルプス北部古道】

調査実施日の他、南アルプス北部山岳古道は陰しく未知の面があるため慎重を期すべく、事前学習会を開き入念に分析研究したうえで、事前に偵察を下記 3 回行った。

①2025. 5. 4 柳川溪谷周辺 3 名、②5. 11 平林周辺 2 名、③5. 18 奈良田・茂倉 4 名

1. 西山峠越え：青柳～平林～氷室神社～池の茶屋～西山峠～奈良田（～奈良田越え）

A 丸山林道・平林～青柳：2025. 7. 28 渡辺峯雄・上田謙治・池田新二郎

B 丸山林道・池の茶屋峠～平林：2025. 7. 12 磯野澄也・東条真百合・サポート小宮山稔

C 丸山林道・池の茶屋峠～奈良田：2025. 7. 12 古屋寿隆・池田新一郎・サポート磯野澄也

2. 足馴峠越え：（湯道）鰍沢～矢川～出頂茶屋～足馴峠（～西山温泉）

A1 寺尾～矢川～小室～寺尾：2025. 5. 28 渡辺峯雄・上田謙治・池田新一郎

A2 鰍沢（南川沿い）～小室：2025. 7. 14 渡辺峯雄・上田謙治・池田新二郎

B1 矢川～出頂茶屋～八丁山～源氏山・大峠手前～八雲池～矢川：2025. 6. 7 磯野澄也・古屋寿隆・石澤貴子

B2 丸山林道・池の茶屋峠～林道～足馴峠～砂斜面トラバース～大峠・源氏山間の小沢沿い～二俣崩壊地：2025. 9. 15 古屋寿隆・石澤貴子

C1 湯島～仙城沢～仙城沢上部二俣～仙城沢～下湯島：2025. 7. 13 古屋寿隆・石澤貴子・手崎喜美子

C2 丸山林道・池の茶屋峠～尾根道～足馴峠～仙城沢上部二俣～足馴峠～池の茶屋峠：2025. 11. 1 古屋寿隆・石澤貴子

C3 丸山林道・池の茶屋峠～林道～足馴峠手前分岐～西尾根～林道～池の茶屋峠：2025. 11. 8 古屋寿隆・石澤貴子

3. 十石峠越え：（切石～）箱原～鳥谷～十谷～十谷峠～新倉（～伝付峠）

A 箱原～鳥屋～十谷（大柳川左岸～右岸）：

2025. 6. 16 渡辺峯雄・上田謙治・池田新二郎

B 十谷～十谷峠～茂倉～新倉：2025. 6. 22 磯野澄也・荻原賢司・手崎喜美子他 1・サポート平松清子

4. 伝付峠越え：新倉～伝付峠～二軒小屋（～大井川西俣～三伏峠～大鹿村～伊那街道：本部 MMC 松本典子対応）

A 新倉～伝付峠～二軒小屋～伝付峠～新倉：2023. 9. 30～10. 1 磯野澄也他 1

5. 荒川本谷：野呂川出合～荒川本谷～細沢出合～尾無尾根～荒川本谷～農鳥小屋（①～間ノ岳～北岳～広河原、②～西・東農鳥岳～大門沢小屋～奈良田）

A1 荒川本谷～農鳥沢出合まで：2025. 8. 2～3 古屋寿隆・石澤貴子

A2 荒川本谷～農鳥小屋～農鳥岳～大門沢小屋～奈良田：2025. 8. 23～24（, 25） 古屋寿隆・石澤貴子・猪俣健之介

【富士講の道】

1. 富士山吉田口登山道：北口本宮富士浅間神社～中の茶屋～馬返～五合目～山頂

A1 北口本宮富士浅間神社～中の茶屋～馬返（遊歩道）：2025. 5. 31 平松清子・遠藤辰也・岩間明子

A2 北口本宮富士浅間神社～中の茶屋～馬返（旧道・車道）：2025. 6. 28 平松清子・岩間明子

B 馬返～五合目佐藤小屋～六合目管理事務所：2023. 11. 3 磯野澄也・北原孝浩他 1

2025. 6. 1 古屋寿隆・石澤貴子

C 富士スバルライン五合目～泉が滝～六合目管理事務所～山頂：2025. 8. 17 古屋寿隆・石澤貴子

2. 精進口登山道：精進湖～富士風穴～五合目

A 精進湖～富士風穴：2025. 8. 9 磯野澄也・平松清子・東条真百合

B 富士風穴～奥庭：2024. 9. 14 磯野澄也・遠藤辰也・北原孝浩・臼田昌美・小嶋数文（磯野、古屋、渡辺）

【金峰山古道】

9 月 28 日、金峰山古道調査の最終「アコウの土場」から山頂までの踏査を行った。アコウの土場に車をデポし荒川まで下降した。何とか渡渉できる地点を探して水量の多かった川を渡り対岸へ、しばらく樹林を歩き潤れた沢で前回の踏査終了点である表参道と合流した。

10 分余りで御室小屋跡に到着。小屋は倒壊し、多くの廃材が往時の小屋の隆盛を物語る。ここから急登となり鎖を頼りに登る 1 枚岩「鶏冠岩」に達し慎重に通過。短い梯子を登り片手廻し岩の基部に達した。岩だらけの急登でルートを外さないように喘ぎながら進み、五丈岩南面に着いた。

岩の基部には石垣が積まれ金峰山金桜神社本宮が祀られている。周囲の石造物などを撮影し、岩陰で昼食の後、下山は大弛峠に向かい峠から長い林道をアコウの土場まで戻って今回の最終回踏査を終了した。

金峰山表参道を4回に分けて踏査したが、古の人達はこの長い急峻な道をどのように歩いたのだろうか？ 深い信仰の力は偉大だと感じずにはいられなかった。これから記録を整理し本部に提出する作業が待っている。まだしばらくは気が抜けない。（小宮山千彰）

山行報告

【登山・ハイキングのためのロープワーク・レスキュー技術講習会】

■実施日：令和7年6月8日（日）

■場 所：甲府市・山梨県緑が丘スポーツ公園

■参加者：古屋寿隆、猪俣健之介、中田雅弘、石澤貴子、手崎喜美子、向山紀子、相川修、遠藤辰也（支部員8名）、埼玉・静岡・東京多摩支部各1名、会員外6名

毎年恒例の最小限の道具を用いた登山・ハイキング・トレッキングのためのロープワークとセルフレスキューの基礎講座。必需品の登山靴・ヘッドランプ・セパレート雨具・保温ジャケット・レスキューシートのほか、短い補助ロープ・スリング・カラビナがあると不測に事態に対処でき、安全が確保される。さらにリーダー等はツエルト1枚携帯すればメンバーが風雨をしのぐことができる。

この講座では、①道具の基本として、ロープ・カラビナ・スリングの説明の後、②安全登山のためのロープワーク（ソロ・単独編）として、目的に合った重要なロープの結び方・使い方1



1種、簡易ハーネスの作り方とセルフビレイ（自己確保）セット、アンカー（確保支点）の構築、空荷で登降する時のザック

の上げ下ろし、ロープとカラビナによるラペル（懸垂下降）を、③安全登山のためのロープワーク（ペア・グループ編）として、ロープやカラビナを使って崖の登降と難所の通過、ザックや雨具、ストックなどを使った負傷者の背負い搬送や複数人によるツエルト搬送のほか、ツエルトの設営とビバークの方法などを勉強した。

毎年参加されている方は指導できるようになり、初めての方も万一の事態に対処できるよう繰り返し体でしっかり覚え込むことで、自信をもって安全で余裕を持った山行ができるようになると思われる。（古屋寿隆）

【甘利山・千頭星山】

■山行日：令和7年6月14日（土）

■地 図：2万5千図「葦崎」「鳳凰山」

■行 程：葦崎市役所駐車場—広河原駐車場—甘利山山頂—奥甘利山—大西峰—千頭星山山頂—甘利山山頂—広河原駐車場—葦崎市役所駐車場

■参加者：池田新二郎、大澤純二、松村明子、八木秀子、山本かおる

甘利山・千頭星山山行の当日、天気予報では午後から雨がばらつきだし次第に雨脚を強めるということだった。そのため、午前中早めに行動することにし、市役所集合後、急いで広河原駐車場へ向かった。曇天にもかかわらず、駐車場にはすでに多くの車が止められていた。簡単にミーティングを行い、まずは甘利山へ向かう。

甘利山は、レンゲツツジの最盛期を迎えている。薄く霧のかかった甘利山では、明るい赤色の花が一面に広がり、幻想的な風景となっていた。皆感嘆の声をあげ、写真を撮りまくる。さらに進んだ奥甘利山では、大きく枝を広げたツツジが満開を迎えている。こちらはヤマツツジだろうか。

ここから千頭星山へは、よく整備された登山道が続く。腰高の笹が生える山の斜面に、カラマツがほどよく生えており、曇り空の下でも意外と明るく、気持ちよく歩ける。途中、開けた笹原で一瞬雨雲が切れ、遠くに奥秩父連峰が見渡せた。さらに登っていくと、八ヶ岳、鳳凰三山もチラリと見え、一同を楽しませてくれた。

千頭星山山頂に着いてしばし歓談し、雨の心配もあるので下山に向かう。11時を少し過ぎた頃、雨脚が強まり、雨具をつけて下山を急ぐ。

幸い雨は小降りとなった。甘利山のレンゲツツジを再度楽しみ、途中にある東屋で昼食をとって、山行を終えた。



あいにくの天候だったが、楽しい山歩きができたのは、ひとえにメンバーの皆様の協力のおかげ。感謝いたします。（池田新二郎）

【木曽駒ヶ岳】

- 山行日：令和7年7月11日(金)
- 地 図：昭文社「木曽駒・空木岳」
- 行 程：菅の台—ロープウェイ—山頂—ロープウェイ—菅の台
- 参加者：大澤純二、村田幸子、日向直子、松村明子、八木秀子、平松清子、小宮山千彰

登山基地である菅の台駐車場からタクシーを予約していたので、バスに並ぶ時間がなくロープ



ウェイ乗り場までスムーズに動く事が出来た。天気は良好で、雷鳥には会えなかったものの、たくさんの花を見る事が出来た。コマクサを始めシナノキンバイやハクサンイチゲは見頃だった。花盛りの木

曽駒ヶ岳は、花に足をとられなかなか前に進めない。これは、ぜいたくな悩みというものだろうか。

山頂からの御嶽山の雄大な姿や雲海も見事で、心に残る夏山の日になった。(平松清子)

【奥丸山】

- 山行日：令和7年8月23日(土)～24日(日)
- 地 図：2万5千図「笠ヶ岳」「穂高岳」
- 行 程：1日目：新穂高一白出沢出合—槍平小屋(テント泊、流しソーメン)
2日目：槍平小屋—奥丸山—ワサビ平小屋—新穂高

■参加者：中田雅弘、手崎喜美子、高橋みゆき
山行委員となって初めての企画。悩んだ末全く人気のない山の魅力を発見しよう！と「奥丸山」(2439m)に決めた。奥丸山は北アルプスの名峰の中にあって中途半端な山だ。以前、弓折岳で雪中ビバークした時に向こうに見える槍・穂高の峻厳な雪山風景の手前にあってひっそりとある奥丸山、あそこの頂きに立てばきっと向こうの槍・穂高やこちらの笠ヶ岳などの峰々の眺めがサイコーだろうなといつか登ってやろうと決めていた。

さて当日、大手山岳会の8月の定例山行と言うのに参加者は全員で3名！流石全く人気の無い山の真骨頂だ！登山情報も殆どなく行ってみたいと判らないというところがなんとも魅力。しかし、そんな山行にもう一つの楽しみを加えた。テント場の前を流れる飛騨沢の清流で流しソーメンとバーベキューをやろうと。夏のイベントとしては最高ではないか！当初スイカ割にしようと思ったが重いしゴミはでるしでソーメンにしたのだ。皆で

食材を持ち寄った。肉やブドウなど。清流の中でワイワイと楽しんだ。

二日目はいよいよ奥丸山、小屋番さんに言われた「殆ど人が歩いていないので藪漕ぎです。熊も多いですから気を付けて下さい」と。なんだかドキドキだ。飛騨沢を渡渉しルートに行く。熊の出没に備えて皆で大声で歌を歌ったり訳の分からない掛け声をかけ合い登った。「よっこいショーイチ、お山はセーテン！」「線路は続くよどこまでも～♪」まるで登山道をチンドンヤが通過していくようだ。山頂からは予想通り素晴らしい眺め。

暫く休憩のあと下山路はまさに藪藪、高橋さんがヘルメットしか見えなくなる。足元もどうなってるか判らない。急下降に無造作に足を下ろすと大変危険だ。一回一回足元の藪を払って足元を確認する。

倒木や崖も多くルーフアイが難しい山だったが普通の山行とは一味違った緊張感と笑いのはじけるサイコーの思い出の山となった。(中田雅弘)

【以下、高橋記述】昨年笠ヶ岳に行く時に見かけた、小池新道との分岐にある橋。その橋を渡った先にある山だということで、興味を掻き立てられた。

北アルプスの中でも人気のない山でありながら、北アルプスの展望台とネットには紹介されていた。なんかマニアックで自慢できそう♪



も流しソーメンというお楽しみ付き。想像以上にキンキンに冷たい沢の水、全集中で箸を操作して麺を掴む、心は少年になりきっていた。

翌日、一人の登山者もいない急登を経て奥丸山山頂に立った。槍ヶ岳がお隣だ。3人で絶景を独占した。少年の心のまま、お〜いと叫んでみる。その後も、チンドンヤになりきって藪漕ぎして下山。フィナーレは昨年見たあの橋！感動の再会、右俣谷から左俣谷を一回りしてきた達成感に涙がこぼれた。

弾けるような夏の思い出に感謝！(高橋みゆき)

【北岳・嶺朋ルート】

- 山行日：令和7年9月14日(日)～15日(月)
- 地 図：昭文社「甲斐駒・北岳」
- 行 程：広河原—嶺朋ルート—稜線—北岳山荘(泊)—北岳—八本歯のコー—白根御池小屋—広河原

■参加者：荻原賢司、池田新二郎、小池雄一郎
荻原さんの広河原山荘前泊案に賛同し2名は宿泊。翌日池田さんと合流し、予定通り6時半に山

行を開始した。自身初の北岳に心躍る思いで嶺朋コースの急登に向かった。3連休であり、大勢の仲間が目指したが、嶺朋コースに向かうのは我がパーティーのみだった。予報通り曇りで風が強い



天候だった。覚悟はしていたが、稜線までの道のりは、自分の体力からすると相当過酷なものだった。稜線手前の這松帯は当然のことながら剪定がされず、ま

さに藪漕ぎ。北海道での藪漕ぎ経験なければ、断念するくらい。さすが萩原リーダーは淡々と先を進んでいく。「募集の時の『健脚』の意味を知っているか？」と叱咤されながら、予定より遅れて14時に稜線。スライドかと思っていた北岳山荘へは、なかなかのコースで、17時半、なんとか到着した。小屋は満室、大好きな酒は生ビール1杯で十分。翌朝の晴れ予報に期待し就寝した。

翌朝4時半、山小屋とは思えない品揃えの朝食を口にし、5時半山頂を目指してガスガスの中を出発。太陽が上があればガスは抜けるだろうとの期待は裏切られ、7時登頂成功も360度視界ゼロ。あげくに雨が降り出し、カップを着て下山開始。一般道の下山はスムーズで、予定より早く13時半に広河原にケガもなく下山完了した。

体力の無さを痛感した山行だった。次回は晴れた北岳に、準備万端でリベンジしたいと思う。

(小池雄一郎)

【槇寄山・土俵山】

■山行日：令和7年11月3日（月・祝日）

■地 図：2万5千図「猪丸」

■行 程：山梨市いちやまマートー上野原 ICー猪丸一郷原一槇寄山一丸山一土俵山一日原峠一猪丸一郷原一上野原 IC一山梨市いちやまマート

■参加者：磯野澄也、平松清子、臼田昌美、遠藤辰也、相川修、小池雄一郎、渡辺和美

今季最初の冬型の気圧配置となり、冷え込み厳しい朝になった。早朝5時10分に集合し高速に乗る。今回の山行は甲斐百山2座に登頂。東京都尾根境の低山ではあるがロングコースだ。猪丸合流場所で遠藤さんを待つと、小仏トンネルで事故が発生し、到着遅れるとの連絡。予定より30分遅れの7時50分、山行開始。

磯野リーダーの、この尾根を舞台にした伝説「つね泣き峠」の宝珠院の僧・香蘭とおつねさんにまつわる色恋民話で盛り上がりながら、南西の稜線から槇寄山に向かう。平松さんの草花解説も興味

深い。

紅に変わり始めたカエデを楽しみながら、順調に槇寄山に9時50分到着。その先、コアジサイの群落と清々しい樹林、富士山の眺望、色とりどりの紅葉を楽しみながら、丸山に着いて昼食。出発の遅れは挽回したが、北風が冷たく体が冷えて冬の到来を感じる。

南東に伸びる笹尾根はアップダウンの繰り返し。13時25分、土俵岳に着。何故かこの周辺では、「関取岳」「ふんどし山」等の相撲にまつわる名の山がある。その由来に興味はわく。



予定通り、猪丸駐車場に15時25分下山。歓談に盛り上がった縦走コースは終了し、満足気に帰路についた。（小池雄一郎）

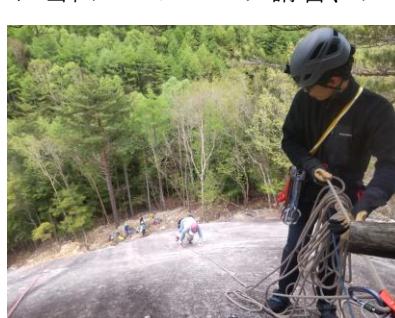
トピックス

「JAC 山梨アルパインクラブ」を設立

私が山梨支部に入会したきっかけは、アイスクライミングがしたい(入会前はガイドさんに連れて行ってもらっていた)、クライミングをするにはロープワークを身に付けなければいけない(ビレイはジムやエルクのロープ講習を受けた)、登山と違って一人では出来ない、からだ。

入会してからは古屋支部長のもと支点構築を学びリードの練習、東沢釜ノ沢、残雪期の阿弥陀岳南稜、裏同心ルンゼ、太刀岡山左岩稜、小川山ガマルート、北岳バットレスなどに行った。もっとアルパイン志向の仲間が欲しいと思う様になっていた。

当クラブは、毎月第一週を除いた水曜日の夜に小瀬スポーツ公園クライミング場でクライミングやロープワークの練習、メンバー同士の交流を主に雪山ロープワーク講習、テント泊や雪洞泊を予定している。



一般登山道から一步先へ、技術向上を目指したい方、私の様にクライミングがしたい、仲間が欲しい、テント泊がしたい、沢登りがしたい方。和気

あいあいをモットーにみんなが楽しいと思える山行を、意見を出し合いながら決めています。見学からでも大丈夫。メンバー募集中です。(手崎喜美子)

「ネイチャークラブ」の設立について

日本山岳会山梨支部の、特に自然環境を好み楽しむ会員を対象に、日本の自然環境に関する知識を学ぶことを主目的として起案しました。多くの皆様方の参加を願います。

日本山岳会山梨支部ネイチャークラブ 実施要領

1. 設立趣意

日本山岳会山梨支部の近年の傾向は、会員の高齢化また新規会員も多くなり、年齢層や登山スタイルに多種多様の趣向が見られます。特に自然環境を好み楽しむ会員も多くありますが、個々対応が主体となっています。これら同趣味を持つ会員のより交流と、自然環境観察合せて生物多様化知識を高めることを目的に、設立起案いたします。

2. 活動概要

- ①各種日本の自然環境に関する知識を学ぶことを主目的とする。
- ②年間四季折々、県内外の自然環境を学ぶ目的を持った山行を企画立案・実施する。
- ③メンバーは支部内外の同趣向の意思を持つ会員・準会員・ゲストで構成する。
- ④自然環境に関する外部講習会などに参加する。
- ⑤必要に応じ役員会を開催する。

3. 実施要項

- ①年間山行計画を年10回前後、11月に策定し山梨支部に提出する。
- ②山行計画の詳細はその都度定め、理事会・定例会・会員メール等で周知する。
- ③ネイチャークラブ登録会員は会員・準会員とし、原則年度初めに意思表示する。
- ④ゲストは会員・準会員の紹介によるが、紹介者の責任において保険加入確認・自己責任とする。
- ⑤クラブの運営として、ネイチャークラブ登録会員（会員・準会員）の会費は年間1000円とする。年間各山行の参加費は、登録会員は無料。ゲストは1日当たり1000円とする。
- ⑥各山行に関わる経費は、山行リーダー手当：2000円支払い、諸費用（ガソリン代・高速代・駐車場代・雑費等）は、参加者にてその都度精算する。ガソリン代は20円/km（運転手代・車消耗費を含む、但し燃費低車種により上限30円とする）を基準とする。
- ⑦事業・会計年度は、4月～翌年3月とする。2025年・2026年度のみ単一年度とし2026年3月～2027年3月とする。2026年3月までは試行期間とする。

2025年11月29日

※設立役員メンバー

部長：山岳自然ガイド：平松清子
副部長：山岳登山ガイド：東条真百合
顧問：磯野澄也

ロートルパーティ 白峰三山縦走記

令和7年8月18日～21日

北杜市に移住して早15年。まだ登っていない心残りの気になる山があった。そのひとつが農鳥岳だ。私は78歳、体力的に今年が最後のチャンスだと思い白峰三山縦走を計画した。何人かに同行をお願いしたところ小宮山千彰さん(74歳)が引き受けて下さり、また八木秀子さん(72歳)も加わり3人のロートルパーティの挑戦となった。

8月18日6時、北岳登山口広河原出発、念願の幕開けだ。私は写真を撮りながらのゆっくりペースで少し遅れながらも最後尾に付く。御池小屋で長休憩し険しい草すべりも順調に登り切り、13時40分に北岳肩の小屋に到着。早速ザックを下ろし小屋前のベンチで絶景をつまみに生ビールで乾杯。さらにビール、ビールで喉を潤し小宮山さん愛飲のスコッチウィスキー・アイラモルトや八木さんお手製の山梨酒を嗜み気分爽快。近くにいた宿泊者との語らいに花が咲いた。夕暮れには、東斜面方向にブロッケン現象が……。辺りは皆の感動で沸き立っていた。阿弥陀如来の出現で明日からの山行を見守ってくれそうだ。小屋の森本さんのご配慮により、個室でぐっすり眠った。

19日、雲海に浮かぶ富士山と朝日を拝み、6時15分ヘルメットを被り小屋を後にした。7時北岳(3193m)登頂。北岳山荘でヘルメットを脱ぎ11時20分、間ノ岳(3190m)登頂。周りの絶景を堪能しながらの昼食だった。その後農鳥岳に向かう登山道は、荒天や濃霧時の道標なのか黄色のペンキマークが目立つ。13時30分農鳥小屋到着。この小屋は人手不足とのことで素泊まり。缶ビールで乾杯し談話棟に移り、小宮山さん持参のフリーズドライ食品3種を三人でジャンケンして選び、これまた楽しいひと時だった。大澤持参のニッカウィスキーフロムザバレル51度を嗜んでいると、これが誘い水で多種多様な登山者達が集まり交流が深まった。古い小屋だったが広い個室棟でゆっくり眠れた。

20日6時20分、ヘルメットを被り小屋を出た。7時30分西農鳥岳(3051m)、8時30分農鳥岳(3026m)登頂。岩場でかなり険しいコースであったが念願の登頂ができた感無量。これから先は大門沢への下りで、またもや急勾配で足場も悪く難儀した。沢の冷たい水で顔を洗ったりしながら、予定より遥かに遅くなって14時20分、大門沢小屋に到着。ここまで来ると水は豊富で、蛇口からの水は出しっぱ



い水で顔を洗ったりしながら、予定より遥かに遅くなって14時20分、大門沢小屋に到着。ここまで来ると水は豊富で、蛇口からの水は出しっぱ

なしで使い放題。この日も、途中で出会った登山者達との交流があった。

21日6時、最後の小屋を後にし、沢にかかった丸太橋を何度も滑らないように渡った。林道に出てからはダラダラ歩きが続き、10時20分、楽しみだった奈良田温泉女帝の湯に到着。下山後の温泉は最高。温泉から出て、無事の下山、充実した山行にビールで乾杯。大広間でゆっくりカツカレー・カツ丼の昼食に舌鼓。ゆっくり寛いだ後は山岳写真館や古民家カフェに立ち寄り、その後バスで広河原経由芦安に戻り幕が閉まった。

今回の山行は良き仲間恵まれ、毎日の天気が素晴らしかった。無理のないゆったりした計画がゆえ、どの小屋でも見知らぬ登山者達と交流ができ気持ち良く楽しく過ごせた。充実した満足感にあふれた4日間だった。皆さんに感謝しています。(大澤純二)

俺にとっての山

俺にとっての山は、魂の響きを聴く場である。競う場でもなければ、証明する場でもない。山から下りて暫く余韻に浸る。するとまるで水槽の中の興奮と言う沈殿物が底に沈んで行くようだ。やがて水槽の底を指でつくと沈殿物が巻き上がる。実はこれが山の魂を後から振り返って見ている現象かも知れない。

朝靄が立ち込めるルンゼに立ち、これから登攀する壁を見上げる。腰回りにギアをつけながら緊張が走る。この時、朝霧と岩の声に耳を傾ける。やがて終了点の稜線に座って移り変わる森のグラデーションを見下ろす。森は俺をそのグラデーションの一部にしてくれようとしてくれる。俺はこの地球と一体になっているのかも知れないと感じる。

なので毎週山に行けなくても一向に構わない。山は俺の中にいるからだ。だが現実毎週のように色んな友達と山に行ってる。これはこれで有り難いことなのである。

とりとめもない独り言でした(笑)。

(中田雅弘)

理事会報告

7月9日(水)

公募山行・支部山行の実績、8月～11月中期公募山行・支部山行詳細案の検討・承認、8/9子どもと登山詳細決定、6/19山行委員会報告と委員会人事・担務案の決議、エントリーシートの更新提出、山岳古道調査実績と予定、10/4,5中部ブロック交流会、「支部通信」・『甲斐山岳』の発行時期の検討、ほか

9月10日(水)

9/21日本山岳会山梨支部アルパインクラブ(同

好会)の設立、9/25,26山梨岳連総合研修会、7月以降の公募・支部山行等の実績・計画、8/9第6回子どもと登山の実績報告・補助金・会計精算予定、9/25全支部員対象の第1回定例会の議題等、10/4,5第12回中部ブロック交流会・静岡支部担当、10/26第66回木暮祭・横尾山記念山行、山岳古道調査の進捗状況、ほか

10月8日(水)

10/26第66回木暮祭・横尾山記念山行、11/3群馬県太田市の木暮理太郎翁を偲ぶ会参加について、山岳祭の冊子発行状況と購入について、公募・支部山行の進捗と実績、9/25第1回定例会の実施報告、同好会「ネイチャークラブ」の設立について、山行委員会(後期山行詳細計画、次年度山行計画と委員会開催等)、山岳古道調査進捗状況、ほか

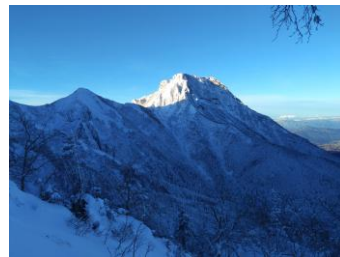
10月12日(水)

公募・支部山行実績と予定及び11/18山行委員会の開催、第66回木暮祭総括(マスコミ対応ほか)と群馬木暮祭の報告、「支部通信」原稿締め切り、12/6本部支部報告会・講演会・120周年式典・晩餐会の出欠・山岳祭冊子の販売、山岳古道調査進捗状況、来年度山岳レインジャー業務の可否と責任者の交代案、アルパインクラブ・ネイチャークラブ報告、2028.12/13JAC山梨支部設立80周年記念事業案、ほか(窪田光一)

編集後記

日本山岳会創立120周年記念事業である「引き継がれる山岳祭」の調査・執筆が終了、また「全国山岳古道調査」の報告が最終段階になりました。全国屈指の山岳県であるため、課されたテーマには重みと深みと困難さがありました。担当者をはじめ協力いただいた支部員の皆様、誠にお疲れ様でした。

今号にも、味わい深い紀行やエッセイが寄せられました。会報・機関誌ともに、いっそう積極的に寄稿していただき内容を充実させたいと思います。よろしくお願いします。(矢崎)



発行 古屋寿隆(支部長)
編集 矢崎茂男(広報委員)

住所: 408-0114

山梨県北杜市須玉町藤田 502

TEL: 090-7734-2788

Eメール: yazaki-s@taupe.plala.or.jp